

ポーラ化成工業、日本化粧品技術者会 第18回 SCCJ 優秀論文表彰において **最優秀論文賞及び優秀論文賞をダブル受賞**

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:三浦卓士)は、2015年度の日本化粧品技術者会第18回 SCCJ 優秀論文表彰において、「最優秀論文賞」及び「優秀論文賞」をダブル受賞しました。

SCCJ 優秀論文表彰とは、日本化粧品技術者会(SCCJ <http://sccj-ifsc.com/>)が編集・発行する日本化粧品技術者会誌に掲載された論文より2年に一度、「化粧品科学および化粧品技術の向上に貢献し、業界の発展に寄与する」論文を選出し優秀論文として表彰するものです。今回は2013年から2014年に掲載された論文25件の中から選出されました。

本表彰におけるポーラ化成工業の最優秀論文賞受賞は今回で7度目、優秀論文賞受賞は12度目となり、ダブル受賞は初めてとなりました。

●受賞の概要

最優秀論文賞・受賞論文概要

■論文タイトル:「表皮バリア機能における Transient Receptor Potential Vanilloid 4 (TRPV4) の重要性」

英文名:「Thermo-Sensitive Barrier: The Importance of Transient Receptor Potential Vanilloid 4 (TRPV4) in Epidermal Barrier Function」

執筆者: ポーラ化成工業(株) 開発研究部 木田 尚子 他

■論文概要

ヒトは皮膚を通じて外気温や物質の温度を感知するが、皮膚と温度の関係に関する化粧品研究はなされていなかった。本論文では、ヒトの表皮細胞に温度感受性のカルシウムイオンチャネルである Transient Receptor Potential Vanilloid 4 (TRPV4) が存在することを示し、体温付近の温度刺激(33℃以上)もしくは特定の化学物質によって TRPV4 を活性化することでタイトジャンクションバリア機能が向上し、また角層バリア機能の回復も促進されることを明らかにした。さらに、バナバ葉抽出物から単離されたエラグ酸誘導体に高い TRPV4 活性化作用と表皮細胞間バリア機能向上作用を見出した。

今回の発見は、冬季や夏の冷房下で発生するドライスキンの原因解明や、肌を温める美容法および化粧品製剤の価値向上につながることで期待される。

優秀論文賞・受賞論文概要

■論文タイトル:「日本人女性における皮膚状態の長期的変化と地域差、個人差に対する検討」

英文名:「Long-term Change, Regional and Individual Difference Assessment of Japanese Female Skin Condition」

執筆者: ポーラ化成工業(株) 肌科学研究部 水越 興治 他

■論文概要

沖縄県から北海道まで、日本の全地域、のべ約600万件の女性の皮膚状態の調査を20年間にわたり行ってきた。その結果、見た目のシミ、肌の色、シワの状態に関する傾向が2000年付近を境に変化し、この変化は、肌色に関する流行の変化(ガングロブーム、美白ブーム)や、UVの危険性に対する社会的認識の変化(母子手帳からの「日光浴」の項目削除)と関連していることが示唆された。また毛穴が目立ちが、日照時間に相関する傾向が示されるなど、多数の知見を得た。

これら「ビックデータ」を用いた分析結果より、皮膚物性の「地域性」や「流行や世相による変化」を明らかにし、適切なスキンケア行動を提案することは化粧品研究の先駆けになるとともに、本研究で得られた知見は、化粧品技術者が商品設計をする上で重要な指標になる。

本賞の授賞式は6月2日に開催された平成27年度第55回 SCCJ 総会(神奈川県横浜市、パシフィコ横浜)にて執り行われました。また、7月9日に大阪国際交流センターで開催される第76回 SCCJ 研究討論会において受賞講演を予定しております。

【本件に関するお問い合わせ先】 (株) ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543